

山口県埋蔵文化財センター第52回展示

掘っちょる山口

— のぞいてみよう 昔の暮らし —



辻花遺跡（田布施町）発掘調査のようす

発掘調査の成果等



遺跡の場所

つじはな
1 辻花遺跡 (田布施町)

展示遺跡年表

中心時期



その他確認された時期



時代	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸	明治
辻花遺跡の時代			■	■			■				
おもなできごと	<ul style="list-style-type: none"> 狩りをしてくらす 	<ul style="list-style-type: none"> 縄文土器や石器・弓矢が使われる 狩猟・漁労・採集を行うムラができる 	<ul style="list-style-type: none"> 大陸から日本列島に稲作・金属器が伝わる ドングリピットが作られる(辻花遺跡) 湿地に多量の土器が置かれる(辻花遺跡) 	<ul style="list-style-type: none"> ヤマト政権による国土の統一が進む 卑弥呼が邪馬台国を治める(『魏志』) 各地にクニがつくられる(『漢書』) 	<ul style="list-style-type: none"> 七五二 東大寺の大仏ができる 七一〇 平城京に都を定める 	<ul style="list-style-type: none"> 七九四 平安京に都を移す 一一六七 平清盛が政治の実権をにぎる 	<ul style="list-style-type: none"> 一一八五 鎌倉幕府が成立する 集落が営まれる(辻花遺跡) 	<ul style="list-style-type: none"> 一三三八 足利尊氏が京都に幕府を開く 一四六七 応仁の乱が起こる 	<ul style="list-style-type: none"> 一六三七 長州藩錢座が設置される 一六〇三 徳川家康が江戸に幕府を開く 一五九〇 豊臣秀吉が全国を統一する 	<ul style="list-style-type: none"> 一八六八 明治維新 江戸を東京とする 	



作業風景



縄文時代のドングリピット

つじはないせき
辻花遺跡 (田布施町)

辻花遺跡は、田布施町下田布施にある集落跡です。遺跡は丘陵の先端部と谷部に立地し、縄文時代から中世にかけての遺構遺物が多く発見されました。

特に県東部では発見例の少ない縄文時代の遺物が出土し、当時の食料であるドングリを貯蔵した土坑（ドングリピット）も確認されました。

また、湿地との境に弥生時代の杭列や矢板列が検出されました。これに伴って多くの弥生土器が出土し、中には意図的に穴がけられた土器やミニチュア土器、分銅形土製品があることから、祭祀が行われた可能性があります。

才賀川に面した低地で、当時の人々の暮らしを理解するうえで良好な資料を得ることができました。



埋設された縄文土器



弥生時代の矢板列と多量の土器



室町時代の掘立柱建物跡



柱穴に埋められた皿

〔特集展示〕まいぶん名品展

山口県埋蔵文化財センター（略称「まいぶん」）は、約50年前から現在に至るまでの発掘調査で発見された多くの出土品を所蔵しています。そして、これらは発見当時はもちろん、現在・未来においても山口県の歴史解明に資する貴重な品々です。

本特集展示では、センター所蔵品の中から特に選び出した14資料をご紹介します。各資料の注目点や、そこから読み取れる当時の暮らしや人々の思いについて解説します。



やよいどきつぼ
弥生土器壺

弥生時代前期（今から約2500年前）の墓から見つかった小型の壺です。形にゆがみがなく、表面も非常に丁寧に仕上げられています。全体を赤く塗ってあり、死者に奉げるための特別な壺だったと考えられます。細い線でつけられた独特の文様は山形重弧やまがたじゅうこう文とよばれ、響灘沿岸地域を特徴付けるものです。

* 出土遺跡：下関市豊浦町 なかの 中ノ浜遺跡



とってつきようき
把手付容器

ジョッキ形土器とも呼ばれるもので、県内唯一の例です。弥生時代中期の住居跡から見つかりました。波状の文様や連続する丸い穴などの装飾が見られます。今から約2000年前に、現在に通じるデザインがあったことに驚かされます。把手は強度を持たせるために土器本体に埋め込まれています。

* 出土遺跡：岩国市周東町 かわいけ 河池遺跡



ふんどうがたどせいひん
分銅形土製品

はかり 秤の重り（分銅）に形が似ることからこの名でよばれます（下側半分は欠失）。弥生時代後期（今から約1900年前）の住居跡から見つかりました。たくさんの小さな穴で髪を、爪で突いたような線で目と口を表現しています。家族単位のまつりで使われた道具と考えられます。

* 出土遺跡：周南市安田 おいさこ 追迫遺跡



じんめんどうせいひん
人面土製品

須恵質の球状で、古墳時代後期（今から約1500年前）のものと推定されます。細い線で眉・目・鼻・口に加え、髪や耳も表現しています。県内唯一の例で、まつりで使われた道具と考えられます。埴輪以外の、古墳時代の人物表現として貴重です。

* 出土遺跡：山口市大字赤妻 ^{あかつま} 赤妻遺跡



じんめんぼくしよいし
人面墨書石

やや縦長の円礫に、墨で眉・目・鼻・口・耳・髪を描いためずらしい出土品です。江戸時代後期（今から約150年前）にまつりで使われた道具と考えられます。ややいかめしい表情から、武士をモデルにしたものかもしれません。

* 出土遺跡：萩市南片河町 ^{はぎじょうせき} 萩城跡 ^{そとほりちく} 外堀地区



とうけん
陶埴

弥生時代前期（今から約2500年前）の保存状態のよい土笛です。中は空洞で、上に吹き口が開いています。前側に4つ、後ろ側に2つの音階調節用の穴があります。中国に起源をもつとされ、山口県・島根県を中心に日本海沿岸の遺跡から出土します。

県内からは演奏可能な陶埴も出土していますが、この2点は小型で演奏には不向きであることから、楽器としてではなく、まつりの道具として作られたようです。

* 出土遺跡：（上）下関市豊浦町 ^{たかの} 高野遺跡
（下）下関市豊浦町 ^{よしなが} 吉永遺跡





ふねがたどせいひん
船形土製品

弥生時代終わりから古墳時代初め（今から約1800年前）のミニチュア船が2点セットで見つかりました。丸木舟に板材をのせた準構造船を表現しており、航海の安全などを祈るまつりで使われたと考えられます。響灘^{ひびきなだ}に面するこの集落が遠方と交流可能な船団を持っていたことが推定されます。

* 出土遺跡：下関市豊浦町 吉永遺跡



どうきょう
銅鏡

古墳時代前期末ないし中期初め（今から約1650年前）の前方後円墳から見つかりました。裏面（写真）には同心円と直線・円形突起から成る文様があります。当時、鏡はまつりの重要な道具で、副葬品に武器が見られないことなどから、この鏡を持っていたのは女性の指導者だったと考えられます。

* 出土遺跡：山口市吉敷 新宮山古墳^{しんぐうやま}



どうきょう
銅鏡

平安時代終わりから鎌倉時代初めごろ（今から約800年前）の墓から見つかりました。出土鏡としては保存状態が非常によく、裏面（写真）に描かれたススキとスズメが明瞭です。よく似た鏡が奈良興福寺に納められており、畿内とつながりをもつ有力者の所持品と考えられます。

* 出土遺跡：山口市鑄銭司 鑄銭司大蔵遺跡^{すぜんじおおとし}



てあぶりがたどき
手焙形土器

暖房用具に似ていますが、まつりの時に火をともすための土器で、山口県では唯一の例です。古墳時代初めごろ（今から約1750年前）に水辺のまつりで使われました。畿内中心に分布することがわかっており、邪馬台国^{やまたいこく}や初期大和政権と関連付ける研究者もいます。

* 出土遺跡：下関市豊浦町 川棚条里跡^{かわたなじょうりあと}



かくはいがたどき
角杯形土器

古墳時代中期（今から約1600年前）の住居跡から見つかりました。牛の角を利用した酒器（角杯）を土器に写したもので、山口県では唯一の例です。また、日本で最古段階の例でもあります。角杯形土器は韓国南部にも分布しており、古墳時代の日韓交流を示す資料となっています。

* 出土遺跡：田布施町大波野 明地遺跡^{みょうじ}



そめつけじきはち
染付磁器鉢

萩城下町から見つかった鉢で、ボタンの花などがみごとに描かれています。裏側には「大明乾隆年^{だいみんけんりゅうねん}製^{せい}」の文字があり、中国で乾隆帝時代（今から約250年前）に作られたことがわかります。上級商人が長崎の出島を通じた貿易で手に入れたと考えられます。

* 出土遺跡：萩市南片河町 萩城跡 外堀地区



ちゃどうぐ
茶道具

萩城下町の商家跡から、茶の湯で使う茶碗・茶入・水指などの道具がまとまって見つかりました。江戸時代前期（今から約400年前）のもので、蔵の中に大事に保管されていました。特注品とみられる数枚セットの大小の皿などもそろっており、ここに住んだ商人が本格的な茶会を催していたようです。

* 出土遺跡：萩市南片河町 萩城跡 外堀地区

山口県埋蔵文化財センター 利用案内

- 開館時間 午前8時30分～午後5時
- 休館日 土・日曜日、国民の祝日、年末・年始
- 入館料 無料

編集・発行 公益財団法人山口県ひとつづくり財団
山口県埋蔵文化財センター
〒753-0073 山口市春日町3番22号
TEL:083-923-1060 FAX:083-923-2001
URL:<http://www.y-maibun.jp/>